説明書　　（令和 5 年 11 月 3 日作成）

（不誠実対応 39）

今までの自分達が行って来た数多くの不誠実な行動を顧みることなく、NHK の取材において、アルプスの森（施設長:宇津慎史）は、「2 度と同じような事故が起きないように注意を払い、再発防止に努めてまいります」とコメント。

今までの施設側の態度から、また非常に無責任なコメントをアルプスの森（施設長:宇津慎史）はしていると遺族は感じている。

この事故はアルプスの森(施設長:宇津慎史)側が安全対策の約束を反故にし、その状況を遺族に隠し続け、遺族にはちゃんと安全対策を行っていると嘘をつき続けてきた為に起こした事故である。

したがってアルプスの森（施設長:宇津慎史）にとって、事故の再発防止に最も重要なことは「約束を守ること」と「嘘をつかない事」である。

しかしながら、一切、アルプスの森（施設長:宇津慎史）は、「約束を破ったこと」と「嘘をつき続けること」に対しての反省もしていなければ、改善策も出していない。

それどころか事故後も、「約束を破る」「嘘をつく」を繰り返していると遺族は感じている。

(詳細事項)

この悠生君の命を奪った事故の最も重大な原因は、命にかかわるような重大な約束を反故にしたことであり、ちゃんと安全対策をしていると嘘をつき続けてきたことであると遺族側な認識している。何度も危険な対応を秘密裏に繰り返し続けることは、重大事故が起こるのを待っていたような状況である。従って、最も重要な再発防止策は、約束を守ること。嘘をつかないことである。

しかしながら、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)の発言はこの「嘘をつき約束を守らなかったこと」を繰り返してきた事に対して反省していると到底考えられないものであった（不誠実対応-21）（音声ファイル-21)。

さらには施設長(宇津慎史)も、安全対策としての 2 名体制の重要性を歪曲し理解し、何度も危険な誘導を単独で行っていたことを示唆する発言をしている（不誠実対応-37)。

すなわち、施設長(宇津慎史)からも児童発達支援管理責任者(宇津雅美)からも、命を守る約束を反故にした事に対する反省も、約束を守る事の決意表明も令和 5 年 9 月 8 日の保護者会ではなかった。

また、事故の原因は命を守るために必要な約束を、アルプスの森(施設長:宇津慎史)側が一方的に破ったからであるにも関わらず、悠生君が見つかった時に、児童発達支援管理責任者(宇津雅美)は、遺族とした大切な悠生君に会いに地元警察署に来ると言った約束も反故にした。

すなわち非常に大切な約束であっても、自己都合で反故にする対応は事故後も続けている事が解る。

さらには事故に関する報告書や、回答書、さらには保護者会での発言内容の全てに多くの明らかな嘘が認められている。

従って遺族としては、事故の再発防止に最も大切な「約束を守ること」、「嘘をつかない事」を履行することは、宇津兄弟（宇津雅美、宇津慎史）には不可能であると認識している。